

## 『西南アジア研究』投稿規定

(※本号より文献表の書式を変更いたしました。執筆される方は十分御注意下さい。)

- I 投稿先 西南アジア研究会 〒606-01 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部内
- II 原稿
- 1 B 5 版200字詰原稿用紙に横書きのこと。(原稿の全内容を入力した MS-DOS テキストファイルを添付することが望ましい。)
  - 2 論文は注を含め80枚でいいど、研究ノート・研究動向は20枚～60枚とする。
  - 3 論文等すべて1号限りで完結するものとし、連載はしない。
  - 4 採否は編集委員会が決定し、手直しを求めることもある。
  - 5 原稿は返却しない。ただし図については、投稿時に申し入れがあれば返却する。
  - 6 別刷は30部を進呈する。ただし増刷はおこなわない。
  - 7 投稿者は本誌の体裁にしたがい、以下の書き方に統一すること。
    - a. 第1頁に表題・氏名、第2頁にその英訳、第3頁以下を本文とし、注・文献表を含めて通し頁をうつ。
    - b. 章はローマ数字、アラビア数字で示す。ただし章節の表題の有無は自由である。
    - c. 注は別紙おこしとし、本文の後ろにつける。注の書き方は次のとおりとする。
      - 1) この場合、帝王の叙任は……  
どちらもいえない。
    - d. 頁のみの引用はしない。参考文献の場合は [Fussman 1978 : 94—98], 資料の場合は [HS : 25]として本文中に入れる。なお94—98, 25などは引用頁である。
    - e. dによって生じる文献表をつくり、別紙おこしで注のうしろにつける。筆者姓ABC順とし、欧文、和文、中文を混記する。中文は拼音による。書式は、下のIVのとおり。
    - f. 雑誌などの略号は本誌の表紙うらの方式にしたがうこと。単行本・雑誌は、欧文ではイタリック指示、和・中文では『 』に入れ、論文表題は括弧をつけず、裸のままにする。巻数はアラビア数字とし、号数は ( ) に入れて、3 (1)、4 (3-4) [3, 4号合併号の場合] などとする。Vol., Partなどの表示はしない。なおロシア文字はイタリックを用いない。
  - 8 以上により、文字原稿は、表題・氏名、英文表題・氏名、本文・注、文献表より成る。
- III 図の原稿
- 1 本誌ではアート紙・折り込み図表は使わない。
  - 2 したがって版面12×18cmを考慮すること。
  - 3 図はそれぞれ別紙に作成し、通し番号をつけ、各図の天地を明確にすること。
  - 4 たとえば図3などが複数の写真などで構成されるときは、版面に入るよう考慮のうえ、出来上り図を作成すること。個々の図は、図1からの通し番号とする。
  - 5 図の説明文(キャプション)は図に記入せず、B 5 版200字詰原稿用紙に書き、他の文字原稿の末尾につけておくこと。
  - 6 本文原稿に図の挿入箇所を明示すること。原稿頁の右下に「図2挿入」などと朱書し、出来上りの面積(約5×3.8cm)、頁における位置(上下左右など)を指示すること。
  - 7 そのままで版下になる図をつくること。図中に文字を貼りこむ場合は、別途に経費を申しうけることがある。

## IV 文献表の書き方

## 参考文献

IB :

DAI : (引用の一次史料の略号、および表紙裏記載以外の雑誌などの略号はここに一括のう

GAR : え、アルファベット順に配列してください)

Tr. Id. :

- Ackemann, H. Ch. (1975) *Narrative Stone Reliefs from Gandhara in the Victoria and Albert Museum in London : Catalogue and Attempt at a Stylistic History*. Rome.
- Allchin, F. R. (1968) *Archaeology and the Date of Kanishka : The Taxila Evidence*. In : Basham, A. L. (ed) *Papers on the Date of Kanishka*. Leiden, 4-34.
- Bühler, G. (1894) *The Bhattiprolu Inscriptions*. *Epigraphia Indica* 2, 323-329.
- Burgess, J. (1970) *The Buddhist Stūpas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882* (rep ed). Varanasi.
- Errington, E. (1987) *Tahkal : The Nineteenth-Century Record of Two Lost Gandhara Sites*. *BSOAS* 50 (2), 301-324.
- Gelder, J. M. van (tr) (1963) *Mānava Śrautasūtra Belonging to the Maitrāyaṇī Samhitā* (1985 rep ed). Varanasi.
- Kurita, I. (1988) *Gandharan Art I : The Buddha's Life Story. Ancient Buddhist Art Series I-II*. Tokyo.
- Kuwayama, Sh. (1994) *The Horizon of Begram III and Beyond : A Chronological Interpretation of the Evidence for Monuments in the Kapiśi-Kabul-Ghazni Region*. *EW* 41 (1-4), 79-120.
- Le Berre, M & D. Schlumberger (1964) *Observations sur les remparts de Bactres*. *Monuments pré-Islamique d'Afghanistan*. *MDAFA* 19, 61-105.
- Marshall, J. (1914) *Sha-ji-ki-Dheri*. *Annual Report of the Director-General of Archaeology, Archaeological Survey of India 1, 1911-12*. Calcutta, 11.
- Marshall, J. (1918) *A Guide to Taxila*. Calcutta.
- Marshall, J. (1936) *A Guide to Taxila* (3rd ed). Delhi.
- Marshall, J. (1951) *Taxila : An Illustrated Account Archaeological Excavations I-III*. Cambridge.
- Marshall, J., A. Foucher & N. G. Majumdar (1940) *The Monument of Sāñchi I-III*. Delhi.
- 安藤志朗(1985) ティルーム朝 Shāh Rukh 麾下の中核 amīr 『東洋史研究』 43(4), 4-11.
- 桑山正進(1987) 『大唐西域記』(訳注)(『大乘佛典』中国篇9) 林檎社.
- 佐藤 長(1979) 『チベット歴史地理研究』 岩波書店.
- 曾 問吾(野見山温訳)(1945) 『支那西域経論史』上 東光書林.
- 田原 正(1978) 六朝建築の設計規準 山本五郎(編) 『中國科學史研究』 平凡社, 39-66.